

令和元年6月27日

大河原地区教科用図書採択地区協議会
委員長 佐山 富夫 殿

大河原地区教科用図書採択地区協議会
公聴会委員長 星 文和

令和2年度使用教科用図書採択についての意見について（提出）

大河原地区教科用図書採択地区協議会公聴会設置要綱第2条の規定により、別添のとおり意見を提出いたします。

1 採択基準について

(小学校 各教科)

・学習指導要領や「学校教育の方針と重点」を元に基礎の部分から発展的な内容まで子どもたちが取り組みやすく興味を持って学習できるかどうか客観的に考察されている。また、視覚的に訴えるもの、ウェブページの活用など時代の流れを取り入れて、少しでも積極的に学習に取り組めるかどうか考えられている。

・学習指導要領に基づき作成されており、採用と専門員会の審査を通して選ばれたものですので、一般の委員としては「差」を見つけるのが難しいものばかりでした。低学年の教科書は、イラストや写真など、学習にまず興味を持ってもらえるような内容に工夫されていました。また、モバイル教材との連携も私が学んだ教科書とは全く異なり、あらためて「時代」を感じた次第です。透明性という部分ではしっかり保たれていると感じました。

・教科書は4つの観点による採択基準によって選ばれるということを教員はもちろん保護者や子どもたちにももっと知らせていけるとよい。3学習に関すること(5)と4表現や体裁に関すること(4)の違いがよく分からない。

・全ての面において、採択基準にのっとったきめ細かな配慮がなされていると思うので問題はないと考える。

・「基準のP33・4(2)児童が親しみや魅力を感じるように配慮されている」について、発行者の東京書籍の教科書(国語)を教科書展示会で実際に見て、強く感じました。学習意欲が湧くように作られていると思いました。

・小学校・中学校・一般図書すべてに言えることであるが、この基準でよいのか見直しをかけてもいいのではないかと適切かどうか適切であれば継続すればいいし、新たな視点の基準があるといいとなれば変えればいいと思います。主体的・対話的で深い学び、ウェブページ等の観点があるのは良い。

・基準として問題なくいいと思う。

・社会科について自虐史観の強い出版社の採択は吟味していただき、避けていただきたい。自国に誇りを持てる内容を。祝日に国旗をあげない。世界のほとんどの国では、自然に愛国心を表明することがごく当たり前である。

・新学習指導要領の趣旨を反映し、「3学習と指導に関すること」の(1)「課題を解決する思考力・判断力・表現力の育成」、(2)「主体的・対話的で深い学びを实践する」となっており、採択基準として適切である。このような点を意識して採択することは大切である。また、ウェブページアドレス等の基準が加えられたことは、児童が主体的に学べることに繋がると思う。

・各教科とも種目1～4について、よく吟味されており、基準が明確である。

(中学校 各教科・道徳除く)

・全ての面において、採択基準にのっとったきめ細かな配慮がなされていると思うので問題はないと考える。

・心身の発達の違いやそれぞれの特性が大きくなる時期に対応して、どの生徒も興味を持って学習に取り組めるか、学力の違いにも対応しているか等学校現場の状況に即しているものを選択できるようになっている。

- ・基準として問題なくいいと思う。
- ・美術・音楽について、今の時代に迎合したような（いわゆる子ども受けの良い）教科書にして欲しくない。あくまでも国宝級の美しいものであったり、偉大な作曲家の曲等を子どもたちに伝える・継承できる内容のものを。本物に触れさせること。その興味づけになるような教科書を希望する。格調高いものを希望する。
- ・今年度調査報告なしだが、小学校と同様に各教科とも種目1～4について、よく吟味されており、基準が明確である。教科書展示会において各社を比較しても、企業努力もよくされており、中学生の実態に合致している。

（学校教育法附則第9条の規定による一般図書）

- ・児童生徒の発達・障害に応じてその時に必要な学習が出来るように様々な図書の中から選択できるようになっている。
- ・子どもの実態に応じた本を選べるようになっている。
- ・特別支援学級に在籍する多様な生徒にあわせてこのように多くの図書が審査されていることを今回初めて知りました。一般生徒が読んでも十分学習に役立つと感じるようなものがあると感じました。
- ・冊数も多く、内容や表現も検討されていると考えられるので、良いと思う。選べるものが多いのは良い。
- ・基準として問題なくいいと思う。
- ・特に「2 組織と配列に関すること」や「3 学習と指導に関すること」では、特別支援学級の児童に必要な学びが押さえられていると思う。
- ・よく吟味されており、基準が明確である。理解度によって基準を参考に選べるよう設定されている。児童生徒の実態に即している。
- ・数多くある図書の中から73冊に絞るまでの過程をもっと詳しく知りたい。

2 手続き・日程について

- ・公聴会委員の意見で専門員会の調査結果が大きく変わってしまうことは少ないのかもしれないが、公聴会の検討期間が少し短いかと感じました。
- ・採択の時期を考えるとこの日程は、最良と思われる。
- ・少し日程がつまっていて、資料をじっくり見る時間が欲しかった。
- ・余裕もあり特に問題はない。

3 専門員会調査結果等について

（小学校 各教科）

- ・細部に渡って各教科をよく吟味しており、平等・明確な調査がなされていた。
- ・2日間でよく調査していると思う。各々の教科用図書の良い特徴をしっかりとまとめてある。選定理由はその中で特に良かった点を取り上げられていると捉えている。
- ・各教科よく調査されていると思います。ただ1位と2位と3位の順位の決定ですが、1位の教科書が2位より何が良くて1位になったのかが分かりません。順位をつけた決定のきめてが分かると思いいます。
- ・各教科どれも丁寧に調査されており、選定理由も分かりやすいものであった。そのた

め、選定の順位も納得できるものであった。

・専門員による時間をかけた検討がなされていると思うので、調査結果は納得のいくものである。

・限られた時間の中で、非常に詳しく子どもたちのことを念頭に置きながら見て、資料を作成されたことに感謝します。

・ご苦労さまと言う気持ちです。

・責任を重く感じ調査研究されていることを報告書から読み取ることができました。

・細かく丁寧に分析されており、素晴らしい。

・教科毎に選定順位が報告されています。その選定理由が記載されていますが、なぜ1位なのか、2位なのかその理由を読んでもその差が分かりません。2位以下の理由は空白ではダメなのではないでしょうか。

・社会と地図帳の選考1位の出版社が異なりましたが、学習を進めていく上で出版社が統一されていた方が、内容がリンクされるのではと思いました。実際に問題はないのでしょうか。

・順位づけはされているが、僅差であると感じた。

(学校教育法附則第9条の規定による一般図書)

・様々幅広い分野から調査されている。

・責任を重く感じ調査研究されていることを報告書から読み取ることができました。

・ご苦労さまと言う気持ちです。

・十分な検討がされていると思う。

・小学校73冊と中学校33冊の一般図書100冊を超える冊数であるが、一冊一冊丁寧に調査されていると感じた。それぞれの特徴が捉えられており、障害のある児童生徒の個に応じた図書を使用することができると思われる。教科書会社が提供しているデジタル教科書を手軽に視聴できる環境を整えて欲しい。

・良いと思う。今の時代にあったものももう少しあるといいかなと思います。

・教科に関わるものだけでなく、特別支援学級の子どもたちに必要な学びである安全や防災・食・からだ・マナーなど幅広く選定されており、妥当だと思う。

・多様な障害や発達の段階に応じた一般図書の中から個に応じたものが選定できると思う。内容が古いものもあるようなので、時代に合ったものを少しずつ増やしていくことも必要であると考えます。

・児童生徒一人一人のニーズに合わせやすい図書が網羅されている。段階に応じた採択をしやすい調整結果となっている。

4 その他

・教科書展示会の広報をもっとしたほうがいいと思います。展示会の案内が来ても意味が分からず見過ごす方が多いと思います。なぜ展示しているのか、興味を持ってもらい、色々な意見を出してもらえるといいと思います。

・教科書展示会へは、教員以外の方、保護者や地域の方はどのくらい行っているのだろうか。広く周知していけるとよい。

・文部科学省で承認済のもので、教育現場に携わる専門員及び先生方が評価・選定され

た教科書であれば、素人が口をはさむ余地はありません。時代の変化に合わせたアップデートは必須かとは思いますが、無理にする必要のない部分で学校現場の方々が混乱するような変化はなくてもいいのではと考えます。教科書は「材料」であって「調理」するのは先生です。料理人が調理するのも、よく知っている食材の方がよりおいしい料理を作れるのではないのでしょうか。あくまで、私個人の意見として、全ての教科書を選定し直す必要があるのかは疑問です。先生も同じ教科書だと飽きたりするんですかね。現場の先生の意見が聞いてみたいです。

・正直全く内容を理解せず、委員を仰せつかってしまったのですが、改めて子ども達の教科書を真剣にしっかり確認できる機会をいただき、よかったですと思います。私自身も勉強になりました。中学生の息子を見ていて感じている事は、「教科書の量が凄い・多い」という点です。学習すべき内容も増えている事もあるのですが、あまりにもカバンに大量に入っており、ズッシリとしています。自転車や徒歩での登校の子ども達は大変じゃないかと思っております。安易にタブレット等の電子化の導入はしてほしいとは思いませんが、どうにかならないのかと感じております。

・素朴な疑問として採択の「最終採択権者は教育委員会にある」ということは分かりました。多くの人・立場の意見を聞くことになっているが、専門員会の資料が採択の意志決定に大きく関わるということはないのかと思う。現場の先生方も採択基準に合わせて学校ごとに記入して提出するが、どのように反映されているのか？保護者・学識経験者の声は・・・？最終決定の決め手とはどういうものか知りたくなりました。

・資料を拝見して難しいなと思った。先生方が忙しい中、検討して選定されているのが素晴らしいと思った。教科書については、工夫がされており子ども達がとっつきやすいつくりで、子どもの細かな状況に対応できる内容になっていると思った。

・多くの皆さんの意見を聞いての採択になってほしい。大河原地域の郷土に合った教科書が採択されるといいと思う。

・学校の教科書で社会問題について教えるのが難しい。保護者としては気にかかる点である。不登校問題など子ども達に理解できるように教科書にマニュアルがあってもいいのではないかと思う。道徳でいじめについて扱っているものが少ないのは残念に思う。教科書の中味や協議会の仕組みについては評価できる。

・委員になって勉強になった。色々な過程を経て使用する教科書が決まることが分かった。子ども達は学習する中で知識の積み重ねによってバランスのとれた大人になる。人格形成のための教科書を選択して欲しい。学力に差が出ないよう均等に学べるような教科書や郷土に密着した内容のものを選定して欲しいと思う。

・より学力が上がる教科書を使う必要があるのではないか。学力が高い地域で使っているものを確認して、この地域でも参考にすべきではないか。